

特集

チャールズ国王、ハリー・スタイルズ etc.

聴いて、慣れて、楽しむ! イギリス英語

イギリスでは社会階層、教育環境、そして地域ごとにいろいろなアクセントが存在します。

本特集では、イギリス国内に存在するさまざまなアクセントをおさらいした後に、「イギリス英語」で報道されたCNNニュース、そしてハリー・スタイルズ、エマ・ワトソン、チャールズ国王の生音声をお届けします。

本特集で取り上げるのは、多数のアクセントがあるイギリス英語のうちのほんの一部。

イギリス英語の沼にハマったら、実際に現地に足を運び、アクセントの違いに注意を向けてみるのもまた一興かもしれません。

執筆 | 青山学院大学准教授 米山明日香

幼少期をイギリス・ロンドンで過ごし、その後 University College London (ロンドン大学) で音声学修士号を取得。現在、専門は音声学、英語教育、発音指導など。

編集 | 高橋溪介

※本特集内に限り、発音記号はIPA式 (International Phonetic Alphabet / 国際音声記号) を使用しており、他のページとは表記が異なりますのでご注意ください。

「イギリス英語」とは？

一般には「イギリスで話されている英語＝標準イギリス英語」と解釈されることがありますが、イギリス英語には「社会階層による分類」と「地域による分類」があり、少々複雑な様相を呈しています。



社会階層による分類

イギリスでは、いまだに「社会階層」と「アクセント(方言)」には深い関係があります。まず、社会階層に関連するアクセントとその発音の特徴を紹介します。

1 キングス・イングリッシュ

(標準イギリス英語、Received Pronunciation, RP)

「イギリス英語」という場合、学術的には「標準イギリス英語」を指し、英語では Received Pronunciation (容認発音、RP) と呼ばれます。この received には「一定の社会階層に受け入れられる」といった意味があり、狭義では「パブリックスクール(名門私立学校)出身」を指すこともあります。したがって、「貴族階級や高い教育を受けた人が話すイギリス英語」といったニュアンスがあります。一般的には the King's English (王の英語)とも呼ばれます。

RPを代表する有名人 ▶ チャールズ国王、ベネディクト・カンパーバッチ(俳優)、エマ・ワトソン(俳優)

2 コックニー Cockney

コックニーはロンドンの下町、特に East End の一帯で話されるアクセントで、「労働者階級の英語」といわれることもあります。発音の特徴として、代表的なものは以下の3つです。

① /r/ が「っ」のような音になる

コックニーでは語中や語末の /r/ がしばしば日本語の「っ」のような音(専門用語では声門閉鎖音といいます)に置き換えられます。例えば、water は標準的発音「ウォータ」[wɔ:tə]ではなく、「ウォアア」[wɔ:ʔə]と聞こえることがあります。

② h-dropping (hの脱落)

h-dropping は単語の最初の /h/ を発音しない現象です。例えば hotel が「ホウテル」[həʊtél]ではなく「オウテル」[əʊtél]と発音されます。

③ /θ/ が [f] に、/ð/ が [v] に

think の /θ/ が [f] になるため「フィンク」と、bother の /ð/ が [v] になるため「ボヴァ」と発音されます。

コックニーを代表する有名人 ▶ アデル(歌手)

3 河口域英語 Estuary English (EE)

estuary とは「河口(域)」という意味で、具体的にはロンドン中心部を流れるテムズ川流域で話される英語を指します。大

まかにいえば、EE は「RP とコックニーの中間の特徴を持つ」とされ、近年は「イギリスの主流の英語」ともいわれるようになっていきます。

EEを話す有名人 ▶ ハリー・スタイルズ(歌手、俳優)

地域による分類

次に地域による分類に基づくアクセントをご紹介します。

4 スコットランド英語 (Scottish Accent)

スコットランド英語はスコットランド地方で話されるアクセントで、地域差が大きく、強いアクセントの場合は英語ネイティブでも聞き取りにくいことがあります。特徴としては、母音の後の /r/ をはっきり発音するため、RP では car が [kɑ:] となるところを [kɑ:r] のように発音してアメリカ英語のように聞こえることがあります。

スコットランド英語を話す有名人 ▶ ショーン・コネリー(俳優)

5 アイルランド英語 (Irish Accent)

アイルランド英語の特徴としては、まず特定の母音の後の /r/ をはっきり発音する点が挙げられます。さらに this や three がそれぞれ、[dɪs]、[tri:] のように聞こえることがあり、/ð/ が [d] に、/θ/ が [t] に置き換わる傾向があります。

アイルランド英語を話す有名人 ▶ ボノ(歌手)

6 リバプール英語 (Scouse)

リバプール英語は別名スカウス(Scouse)と呼ばれます(同市の港町で食べられる煮込み料理の名前に由来)。発音の特徴として、goat が「ゴウトウ」ではなく、「ゲウトウ」のように発音され、また foot と strut は RP では /ʊ/ と /ʌ/ と区別されますが、両方とも [ʊ] のように発音される傾向があります。

リバプール英語を話す有名人 ▶ ポール・マッカートニー(歌手)

7 バーミンガム英語 (Brummie)

バーミンガム周辺で話されるアクセントで、柔らかく親しみのある響きが特徴です。発音の特徴として、goat が RP の「ゴウトウ」ではなく「ガウトウ」のように発音され、price は「プライス」ではなく「プロイス」、face は「フェイス」ではなく「ファイス」と発音されるのをよく耳にします。

バーミンガム英語を話す有名人 ▶ オジー・オズボーン(歌手)